



PBLとは？

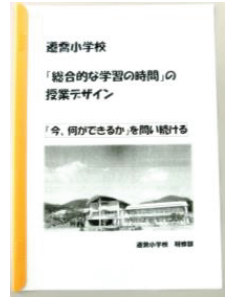
Project Based Learningの略で、子どもたちが、自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決する過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を身に付ける学習方法のことであり、「課題解決型学習」ともいわれます。

【キーワード】

・ カリキュラム・マネジメント ・ 柔軟に修正 ・ 単元構想 ・ 今、何ができるか ・ 地域貢献 ・ 発信

1 学校での位置付け

遷喬小学校では、「生活科」、「総合的な学習の時間」、特別支援における「自立活動」の3つを中心とした研究テーマに継続して取り組み、R4年度で6年目となりました。学校教育目標「自ら未来を拓き 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」の実現に向けて、教職員はこれまでの取組の振り返りやまとめをもとに作成した冊子「『総合的な学習の時間』の授業デザイン」を活用し、年度当初に校内研修を行い遷喬小が培ってきたシステムについて共有します。その際、教科との関連や反省について前年度の学年担当者から説明を受ける際に、新しい視点を常に取り入れるようにしています。このことが、**カリキュラム・マネジメント**の視点をもって新年度の実践に臨むことにつながります。



遷喬小学校「総合的な学習の時間」の授業デザイン

1年を通して「深い学び」をデザインする ～子どもと教師がともに更新し続けるカリキュラム～

校内研修による事前準備を経て、該当学年で育成したい資質・能力及び探究の題材を設定し、想定される活動の見通しを立てて学習を進めていきます。しかし、どれだけ丁寧に単元づくりを行っても、子どもの活動は教師の想定通りにならない場合もあります。

そこで、教師は子どもたちの活動状況や思いによってその都度年間指導計画を見直し、子どもたちの反応や求めに応じて**柔軟に修正**することでよりよい学びを生み出していきます。「主体的に探究する子どもの育成」には、探究の過程で子どもたちに失敗があってもよい、**当初の想定と違っていてもよいという教師の構えが重要**と考えています。



前年度に作成した単元計画と教科の関わりを見直し



本年度の校内研修で共有

総合的な学習の時間「単元計画の作成」～「実践」

単元計画の出発点となる3つの視点



- ① 3つの視点から、中心となる活動を思い描く
- ② 単元を構想
- ③ 探究的な学習としての展開をイメージ
- ④ 実現可能か検討
- ⑤ 単元計画及び学習指導案作成
- ⑥ 単元の実践

★単元構想のポイント

児童の興味・関心

児童の学びの思考過程を予測

教師の意図

学習を効果的に生み出せること
具体的な手立てがあること

教材の特性

児童の求めで本物との出会いを意図的に仕組む

学びと指導過程

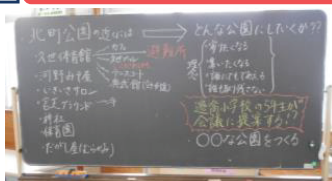
体験→気付き
→モデル化
→もっと調べたい
→次の体験

必然性・必要感

必然性、必要感を持たせる
児童の「問い」があること



校内研修「②単元を構想」



「⑥単元の実践」



R3年度5年生 学習の様子

「②単元を構想」では、単元名（※合言葉として児童と設定する）に加え、関連的な指導を通して育成したい資質・能力を明記して「習得」と「活用」を意識した学習活動の展開につないでいく。

2 具体的な活動

子どもたちは、人や地域とのつながり等から「**今、何ができるか**」を問い続け、「**地域貢献**」に向けて自ら考え、体験を通して学び、探究したことをもとに**発信**をします。

活動では、「**課題の設定**」「**情報の収集**」「**整理・分析**」「**まとめ・表現**」の探究の過程を1年間に何度も繰り返します。探究活動の際にはタイトルを子どもたちと決め、活動の「**合言葉**」とします。

最終の「**まとめ・表現**」では、分かったことのまとめで終わるのではなく、実際に子どもたちが立案した活動の実施や、子どもたちの成果物の活用等の発信となります。活動が進むと、子どもたちは授業の開始時間になると教師の指示がなくても自ら活動を始めたり、家庭でも自発的に活動したりすることもありました。

また、生活科では「**学校たんけん**」や「**秋のおまつり**」等の題材で、友達や異学年、地域の保育園児等との交流を通し、どのようにすれば相手を楽しめるかという課題意識をもって、遊びの質を高める活動を行っています。

遷喬小学校「総合的な学習の時間」のテーマ

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
3年生	久世のお宝	久世の人 久世のまち	久世のまち 地域貢献	久世のまち 地域発信
4年生	福祉	福祉 (交流)	真庭の歴史 (伝統文化)	ゆるキャラ 地域貢献
5年生	バイオマス	地域の伝統 継承	林業 バイオマス	防災 町づくり
6年生	人 キャリア	修学旅行 キャリア	共生社会 キャリア	修学旅行 キャリア



教室に学びの足跡を掲示

R3年度3年生の実践

「久世はすごい」

社会科の授業で真庭市役所の観光課からゲストティーチャーを招いて地域の魅力を学習。



観光課の方による説明

自分たちの住む久世地区についての紹介が少ないことに気付く。

- 【**課題の設定**】久世のいいところを調べて観光課の人に伝えよう。
- 【**情報の収集**】久世の人やお店、名物等を調べる。
- 【**整理・分析**】付箋や思考ツールで伝えたいことを整理・分析。
- 【**まとめ・表現**】国語科の授業で学習したポスターを作り、発表。

観光課の人に発表を褒められ、久世のことをもっと広めたいという思いをもつ。



「整理・分析」

- 【**課題の設定**】久世のすごいところを広めよう。
- 【**情報の収集**】伝えたいことを深める。※必要に応じて再調査(インタビュー、本、インターネット、現地調査)伝え方についてプロフェッショナルから学ぶ。
- 【**整理・分析**】付箋や思考ツールで伝えたいことを整理・分析。広めるために相応しい方法を自分たちで選ぶ。
- 【**まとめ・表現**】パンフレット、ポスター、本、顔はめパネルを作成し、市内の各所に設置。2年生に成果発表。

【**ふりかえり**】1年間の活動の振り返り。地域の一員として、これからも何ができるかを考える。

R3年度5年生の実践

「広めよう！木の良さを」 ～「木づかい」で「気づかい」～



真庭市キャラクター
まにぞう

「ゆるキャラ」はその土地の特産物や大切にしているものをモチーフにしていることを学習。

真庭市のキャラクター「まにぞう」は「木」をモチーフにしていることを知り、もっと真庭市の木のことが知りたくなる。

- 【**課題の設定**】真庭市の「木」に関して詳しく調べよう。
- 【**情報の収集**】バイオマスツアーや山探検で現地調査。
- 【**整理・分析**】分かったことや問題点を思考ツールで整理・分析。
- 【**まとめ・表現**】廃棄する予定だった真庭の竹で楽器を作り、発表。

木の良さを多くの人に知ってもらいたい、お世話になった人に感謝を伝えたいという思いをもつ。

- 【**課題の設定**】木の良さを伝えよう。
- 【**情報の収集**】伝えるためのよりよい発信について調べる。7つのグループで伝え方、内容を考えて新しい情報を収集する。※必要に応じて再調査
- 【**整理・分析**】真庭市郷育魅力化コーディネーターや上級生、保護者にアドバイスをもらい改善。広めるために相応しい方法を自分たちで選ぶ。
- 【**まとめ・表現**】クイズや動画、ポスターなどで学校内外に発信。

【**ふりかえり**】1年間の活動の振り返り。地域の一員として、これからも何ができるかを考える。

3 課題と今後に向けて

遷喬小では、教職員の学びや培ってきたシステムをどうつなげていくかを考えています。校内研修で使われている冊子「『総合的な学習の時間』の授業デザイン」は、**必要に応じてその都度見直され**、子どもの実態や時代により即したものとなるよう**アップデートを続けています**。また、子どもたちの成果物を学校の各所に掲示したり、翌年度に参考として活用したり、写真や動画に残して共有したり等、「**わらしべ長者方式**」でつなぐことを意識しながら、よりよいものを生み出していけるよう取り組んでいます。

取材を通じて、主体的に探究する子どもたちに、教師は1年を通じて柔軟に対応し、「**学びを生み出す活動**」や「**本物との出会い**」をコーディネートしていることがわかりました。子どもたちからは「**総合の時間が楽しみ**」という意欲あふれる声も聞こえてきました。



センターHP